

第5学年 国語科の実践

1 単元名 「大造じいさんとガン」 （全6時間 本時5時間目）

2 単元目標

○登場人物の相互関係や心情の変化などについて読み取ることができる。

◎物語の全体像を具体的に想像して構造図にまとめたり、主題について自分の考えをもったりすることができる。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題 「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり
ブロックテーマ・・・「仲間への理解、自立する自分」

- ・ 仲間を理解しつつ、自分の思いも大切に作る姿
- ・ 新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

〈聴く・話すについての指導〉

クラスの「話す・聴くルール」を自分たちで決めたことで、一人一人がより意識しているように感じる。友だちの考えを自分の考えと比べながら聴くことや相手を意識した話し方を意識することで、全体での話し合いが活発になってきた。また、みんなの前で話すことに抵抗がある児童がいる。間違えても安心できる雰囲気を広まるように、反応の仕方・意見のつなぎ方に注意して活動するようにしている。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

ノートやプリントに自分の考えを書くことはできるが、全体の話し合いになると発言する子が限られてしまうので、子どもの発言に対して教師が価値付けたりペアやグループで発表し自信をつけたりするなど、多くの子が話し合いに参加できるように工夫してきた。また、少人数で話し合うことで、違う意見にも目を向け、気になる部分があると聞き返したり違う意見でも納得するところがあれば自分の意見に書き足したりすることを子どもたちが自然と始めるようになった。

国語では、これまでの経験をもとに、文章の中から根拠を見つけ心情の変化や物語の山場について話し合ってきた。自分の考えの根拠にあたるものをたくさん見つけようと、同じ意見の友だちと考えたり話し合いで出た納得する意見を取り入れてまとめたりする姿が見られた。また、自分の考えに自信がもてると全体での話し合いでも発言できる児童が増えたので、グループ活動も取り入れながらこれからも進めていきたい。

4. 単元と指導について

＜☆5年部が考える国語科の「ひびき合い」の指導について＞

☆1 5年部の「ひびき合い」の定義について

友だちの意見を検討すること = 「ひびき合い」

と定義して研究していきたい。

子どもたちは教材を読み取り、自分の考えをノートに書き、発言してみんなで話し合う。多くの学習で行われてきた流れだと思う。この話し合う際に、学習が盛り上がらない場面があるとすると、それは意見を発言して終わってしまう場合ではないだろうか。盛り上がる場面があるとすると、子どもたちの意見にズレが生じ、そこから子どもたちが「話し合いたい!」、「深く考えたい!」という気持ちになり、一人の意見から派生するように賛成意見、反対意見、第三の意見などが生まれる場面だと思われる。

この「意見のズレ」というのは、教科や教材の特性的に自然と発生する場合もあるし、学級の雰囲気や子どもたちの特性によって発生する場合があるが、必ず出てくるものとは限らない。「ズレ」が生じるように学習を構成しても、実際に本時になったらそうはならないという経験がどなたにもきっとあるのではないだろうか。

そこで我々は、研究主任から「教師の出どころ」を今年特に意識をしたいとお話にあったように、「問い返しの発問」による教師の話し合いの交通整理によって、「意見のズレ」を意識して話し合いが進められるように学習を考えてみた。

今回我々5年部で、国語科の「大造じいさんとガン」の学習を進める上で考えた「問い返しの発問」は、

(子どもたちからこのお話の主題についての意見がいくつか出されて分類された状態で)

「これらの主題の中で一番作者の思いを表しているのはどれだろうか？」

である。

「どれが一番？」と問うことで意見のズレに注目させ、「友だちの意見をみんなで検討する」ことをさせたい。教科書を読み返しながらか、またはグループやペアで話し合いながら検討をし、その後全体でそれぞれの出されている意見のよい点、違うと思う点を出させて検討を進めていきたい。

もちろんこの手法を使うと討論のようになるかもしれない。でもそれでもよいと考える。最終的にはクラスの多数決を行ってクラスとしての意見を定めるかもしれない。でもそれでもよいと考える。なぜならば、全体の話し合いが終わった後には、もう一度一人で考える時間を設け、全体の話し合いを経て、自分は最終的にどう考えるかをまとめる時間を設けるからである。この最後に自分で判断し、自分の答えを見つけることが最も大切であり、「友だちと意見を検討すること = ひびき合い」は、子ども一人ひとりが自分の答えを出すための、自らの考えを広げたり深めたりすることを促す過程だからである。

以上のようにして、「友だちの意見を検討すること = ひびき合い」と定義して学習計画を立て、「友だちの意見を検討すること = ひびき合い」を通して、国語科のねらいへと迫りたい。

では、今回の「大造じいさんとガン」における国語科のねらいとは何か？について以下述べていく。

☆2 「大造じいさんとガン」における国語科のねらいとは何か？

「大造じいさんとガン」は、はじめはガンを卑怯な手段を使おうとしても捕まえようとしていた大造じいさんが、ガンのリーダーである残雪の自分が捕まっても仲間を助けようとする勇気のある姿に心を打たれ、正々堂々と戦うことの素晴らしさに感銘を受けるお話である。

このお話は適所に情景が描かれ、中心人物である大造じいさんの心情がよく表れている。また、中心人物の心情の変化を見ていくと、はじめの様子、心情が変化するきっかけ、変化した後の様子がわかりやすい。心情の変化のきっかけや変化した後には物語の「主題」につながる（または暗示する）文章が含まれていることが多いが、この物語においてはそういった意味で、「主題」について捉えやすい物語となっている。

学習指導要領においては、

Ｃ 読むことのイにおいて、

イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること

とある。この物語は、情景が適所に書かれていて、心情を読み取ることに於いて行動や会話、情景などを通して暗示的に読み取ることに適していると考えられる。また、

Ｃ 読むことのエにおいては、

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること

とある。全体像は「はじめ～な〇〇が、～によって、～になる話」という形で捉えることができるが、この物語ははじめ・中・おわりがわかりやすいので、全体像についても捉えやすく、それゆえにまた、「表現の効果」についても自分の考えを持ちやすい。「表現の効果」については、学習指導要領解説のＣ読むことのエの解説において、

感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目しながら読むことが重要である。

とあり、「主題」について学習することで「表現の効果」へと迫ることができる。以上のような理由から、「主題」を通して学ぶ「表現の効果」を最も重要な学習のねらいとして定め、そこで「ひびき合い」を通して一人ひとりが自分の考えを持てるようにしていきたい。

しかしながら、いきなり「主題」について子どもたちに問うても、内容理解ができていない中で行っては、学級の子どもたち全員が「ひびき合い」をする舞台に立つことはできない。

そこで、「ひびき合い」をするための土台を大切にしたい。土台について以下さらに述べていく。

☆3 「ひびき合い」をするための土台を大切にする

誰もが話し合いに参加できてこそ、私たちが目指す「ひびき合い」なのではないかと5年部では結論に達した。また、話し合う上で共通の土台がなければ、話し合いがかみ合わず、ひびき合わないとも考えた。そこで、今回の学習においては「ひびき合い」のための土台を設定したのが次の通りである。

〈ひびき合いのための土台〉

- ① 音読活動をして内容の理解を図る。
- ② 登場人物をおさえることを通して、丸ごと読みを行う。
- ③ では、中心人物は誰なのかをおさえることを通して、人物像や心情の変化に注目する。
- ④ 心情の変化に注目することで、人物の変化の「はじめ」「中」「おわり」をおさえる
- ⑤ 「はじめ」「中」「おわり」をおさえることで、物語の「全体像」を理解する。

これらの①から⑤までが、学習指導要領のC読むことの

イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること

と、

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、

の部分になる。そして、この①から⑤を土台として、学習指導要領のC読むことのエの後半部分である、

表現の効果を考えたりすること

へと迫っていく。この「表現の効果を考えたりすること」の部分は「主題」を考えることで扱い、そしてまた、この「主題」について話し合うことで「ひびき合い」を目指す。

その際には、「問い返しの発問」を用いて、

(子どもたちからこのお話の主題についての意見がいくつか出されて分類された状態で)

「これらの主題の中で一番作者の思いを表しているのはどれだろうか？」

という一番を問う発問をすることで話し合いをする。学級の児童の実態に応じて、討論をしたり、グループで話し合ったり、あるいはクラスの考えを多数決で決めるなどの活動を通して「ひびき合い」を行い、子ども一人ひとりの考えを広げたり深めたりすることによって、最終的な自分の考えを持てるようにしていきたいと考える。

5. 単元構想

単元構想 国語科 登場人物の心情の変化に着目して読み、物語のみりよくを伝え合おう

(大造じいさんとガン) 全6時間 本時 5時間目

単 元 目 標	<p>◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。</p> <p>○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。</p>
------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

・読書環境の整備
別の椋鳩十の作品の読み聞かせ
学級文庫に椋鳩十の作品を置く

・別の作品での読む力の指導
一人読み 「登場人物」の定義
情景描写から心情を読む 音読

・「～と～」が題名である物語から登場人物の関係を読む経験

・文章を音読したり朗読したりしている。(知識・技能) [朗読・記述]

・比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(知識・技能) [発言・記述]

・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(思考・表現・判断)

中心人物って誰だろう？ ①

・付属 CD の朗読を聞き、作品世界に浸れるようにする。

- ・ハヤブサを追い払った残雪 ・残雪がいないと話が始まらないから
- ・心情が変化しているのは大造じいさんだから
- ・残雪の気持ちは書いてないから

人物像や心情の変化に注目して読もう ②

- ・「再び、じゅうを下してしまいました」ってところで残雪に対する気持ちが変わった思う。
- ・「ただの鳥に対しての気がしませんでした」ってところで残雪を認めたと思う。
- ・かわいそうとかではなく、「強く心を打たれました」ってあるから、残雪の姿に感動しているんだと思う。
- ・仲間を助けたり、死にそうになっても頭領として堂々とする姿に、すごいなって思っているから今までとは違う。
- ・はじめは違った。

変化の前と後の大造じいさんはどんな人？ ③

「前」

- ・「いまいまく思っていました。」とあるから、敵なんだと思う。
- ・ガンが捕れないとおじいさんたちは生活できなくなっちゃう。「残雪が来てから一羽も捕れなくなった」んだから、恨んでいる。
- ・「今年こそ」「かねてから」ってあるから、ずっと前から恨み続けている敵だと思う。
- ・「たかが鳥」ってあるってことは、おじいさんはまだ自分に勝ち目があると思ってる。ただの動物って感じで、馬鹿にしている
- ・自分の腕の方が上。・「感嘆の声」は、馬鹿にしてたから、驚いたんだと思う。

「後」

- ・大造じいさんにとって残雪は、30年以上経っても忘れられない存在になった。残雪は思っていないけど。
- ・「おれたち」って言っている残雪はライバルって言っても、悪いライバルじゃなくて、仲間って感じ。
- ・残雪に対して、尊敬してる。すごい奴だって思ってる。
- ・「おれたち」ってあるから、自分も残雪みたいになろうって思ったんじゃないか。
- ・憧れているっていうか。もう倒す敵じゃない。

・自分たちの考えた主題をグルーピングし、みんなの考えがわかるようにする。

主題ってなに？④

・「読むこと」において、文章を読んだでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。
(思考・表現・判断) [発言・記述]

<仲間を想う気持ちが大切>
<仲間のために動く力><仲間は大切>
・自分よりも強いハヤブサに自分からぶつかっていったから。
・自分が傷ついても、必死になって仲間を救おうとした残雪に感動したから。
・2年も会っていなかった大造じいさんのガンを、助けてくれたから。

<誰に対しても尊敬の気持ちをもつことが大切>
・残雪を逃がした大造じいさんがかっこよかったから。

<助け合うことが大切>
・最初は残雪のことを捕まえようとしていた大造じいさんだったが、最終的に助けてあげたから

<あきらめないことが大切>
・ハヤブサに立ち向かう残雪のシーンが多く取り上げられていたから。

・友達の考えを聞き、自分の考えに取り入れたり、自分の考えを広げたりしようとしている。(主体的に学習に取り組む態度) [発言・観察]

・積極的に意見や感想を共有し、学習の見通しをもって物語の魅力を伝え合おうとしている。(主体的に学習に取り組む態度) [発言・記述]

・自分の主題と友達の主題を比較し、自分の考えを強化したり、考えが変化したり、「AとBを合わせてCという考えだと思う。」といった統合をしやすい声かけをする。

これらの主題の中でより良いものはどれかな？⑤ (本時) ⑥

仲間を大切にすべきだ。	誰に対しても尊敬の気持ちをもつことが大切。	あきらめないことが大切。	助け合うことが大切。
○ハヤブサと戦う残雪は、自分の仲間を助けるためだけに動いたから。	○何がなんでも残雪を捕まえたいたい大造じいさんが、「堂々と戦おう」と声をかけているから。	○大造じいさんは、何度失敗しても挑戦し続けていたから。	○大造じいさんにつかまったガンを残雪が助けた姿を見て、大造じいさんの心情が変わったから。

6. 本時について

本時目標 : 心情の変化や山場など、読み取ったことをもとに物語の主題をまとめることができる。

学習活動		主な支援・留意点 ◆評価 【観点】
<p>○動物の思いを感じ取ることが大切だ</p> <p>・p241 残雪の思いを感じたから銃を下した。視点がここの残雪。</p>	<p>○正々堂々と戦うことが大切だ</p> <p>・p244 最初はひきょうな手→セリフで「堂々と」と言っている。</p> <p>・p241 残雪の勝てないかもしれない相手と戦った姿を見たから。</p>	<p>◎この物語の主題をまとめよう。</p> <p>・根拠を出したり自信をもって取り組んだりできるように、同じ考え同士のグループで話し合い活動をする。</p> <p>★焦点化のポイント</p> <p>・意見の言い合いだけにならないように、何について話し合っているのかを意識しながら進めるようにする。</p> <p>◆様々な根拠をもとに、主題をまとめることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>・話し合ったことをもとに、再度、自分で主題を考えまとめる。</p>
<p>○あきらめずに助けることが大切だ</p> <p>・p240→ 仲間のために「あきらめずに仲間を助けた」残雪の姿に心を打たれたから。</p>	<p>○だれかを見習うことが大切だ</p> <p>・p243以降の行動で、残雪を助けている</p> <p>→ 残雪と同じ行動をしている。</p>	
<p>○仲間は大切にするべきだ</p> <p>・p241 残雪は助けなくてもいいのに助けた。</p> <p>・p242 くったり→「真剣に・仲間のために」という思いが強い。</p>	<p>○公平にすることが大切だ</p> <p>・場面1→3 ガンを取ろうとしている。</p> <p>場面4→ 残雪の思いを感じて考え直した。</p>	
<p>○あきらめないことが大切</p> <p>・p230 作戦が失敗しても、チャレンジしている。</p> <p>・p244 考え方は変わっても、やり方を変えてガン狩りをしようとする。</p>	<p>○助け合うことが大切</p> <p>・p241 残雪の仲間を助ける姿を見て。</p> <p>・p233 仲間がつかまらないように頭を使っている。</p>	

7. 実践を終えて

本単元では、「物語の主題を考えよう」を柱にし、学習を進めてきた。作者が伝えたいことは何かを考えるにあたって、登場人物の心情の変化や情景描写などを全体でおさえることで、一人ひとりの考えの土台が同じになるようにした。主題を考える際の根拠となる部分が全員共通のものになり、話し合いがぶれることなく進んだ。

【成果○と課題△】

○同じ考え同士でグループをすること

本学級の児童は、個人で考えをもつことはできるが、自信がなかったり全員の前で話すことに抵抗があったりする子が多い。そのため、自分の考えに近いもの同士でグループを組むことで安心して学習に取り組むことができた。また、違うグループの話聞きながら相談する姿もあり、一人ひとりが積極的に参加していた。

○△話し合いのテーマ設定・時間設定

物語の主題を考える際に様々な考えがあることを知り、その中でも自分の考えがよりよいものだということを提案するために、グループで根拠をたくさん探す姿が見られた。授業終わりには、「もっとやりたい。」「次の時間も国語にしようよ！」などの声があがり、子どもたちにとって解決したい問題だったと感じる。しかし、自分たちの考えを発表する時間が長くなってしまい、間延びしてしまうことがあった。一人ひとりが考えをもっているのに、発表する時間を短くするために ICT 機器を活用する方法も検討したい。

△主題のとらえ方

主題を考える際に、話し合う土台がそろうように全員が「読者論」で考えるように限定した。しかし、考えていく中で「作者論」になってしまい、話し合いで考えがかみ合わないことがあった。主題の考え方を児童と確認したり様々な考え方がることを周知したりすることも大切だと感じた。

